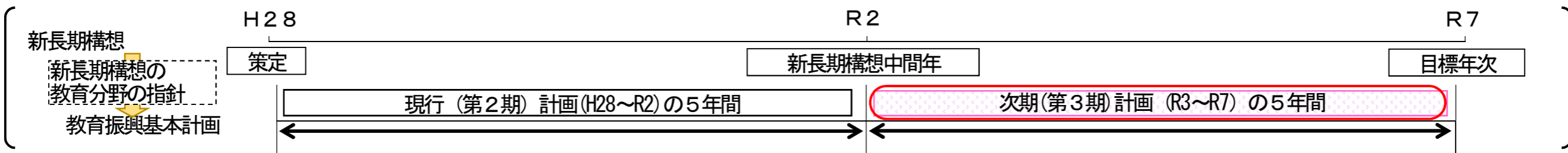


「第3期 石川の教育振興基本計画」のポイント（総括）

第3期計画策定に当たっての基本方針

現在（第2期）の計画は、石川県新長期構想における教育に関する分野としての性格を有している。次期（第3期）の計画策定にあたっては、**新長期構想の目標年次が令和7年度であることを踏まえ、計画期間は令和7年度までの5か年とするとともに、現計画の「基本理念（未来を拓く豊かな人づくり）」、「めざす人間像」、「8つの基本目標」は継承し、現計画策定以降の状況の変化を踏まえたものとする。**



第3期計画に盛り込む主な新規項目

I 現計画の策定以降にすでに取り組をスタートさせているものを第3期計画に位置づけ

1. キャリアステージに応じた「いしかわ型教員研修体制」の充実（H29～研修体制を再構築）

教員の急激な世代交代が進む中、ベテランの指導力の継承と現職教員の指導力向上を目指す

①若手教員早期育成プログラム（採用～10年目が対象）

⇒ 採用10年で一人前の教員に育成、R1から全校で実施

②層の薄い中堅教員（35～45歳）への研修

⇒ 教科指導リーダー養成研修・学校マネジメント力養成研修

③研修全体のボリューム削減

⇒ 今年度は新型コロナウイルス感染症への対策として、可能な限り講義はオンデマンド配信で実施

⇒ H28に比べ集合型研修を約3割減

④いしかわ師範塾の充実

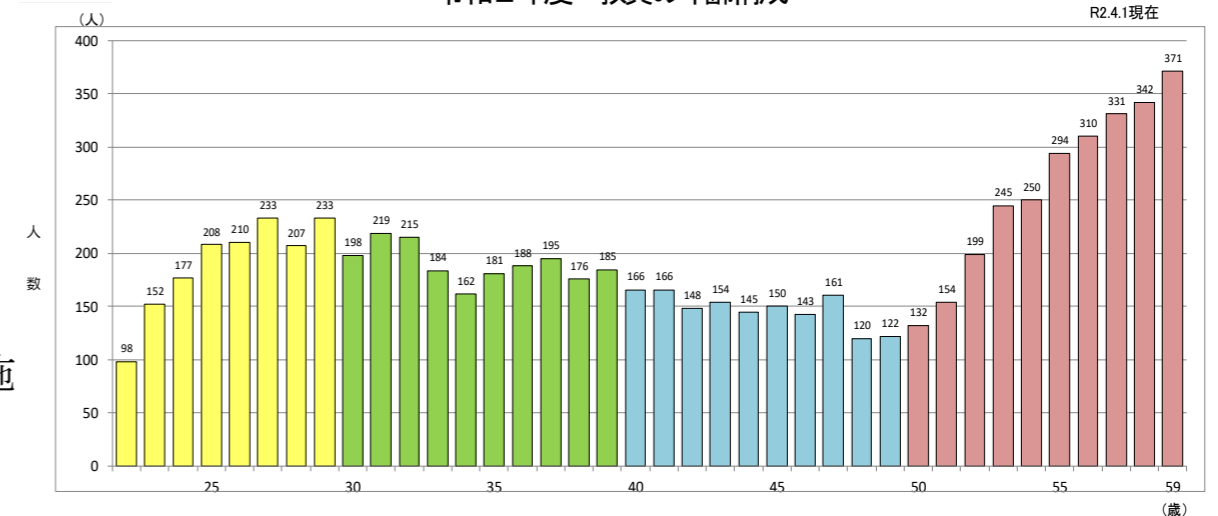
⇒ 学生クラス標準コース受講生

H25(1期生)95名 → … → H30(6期生):131名 → R1(7期生):149名 → R2(8期生):145名

⇒ 新卒の教採合格者に占める師範塾受講生（標準コース、短期コース）の割合

H27:67.8% → … → R1:78.3% → R2:75.6% → R3:81.8%

令和2年度 教員の年齢構成



2. 教職員の多忙化改善（H30～実施）

教職員の多忙化改善に向けた取組方針（H30年3月 策定）に基づき、3年間（H30～R2）の取組を実施中。一定の成果が現れている。



今後も取組方針に基づき、取組を着実に実施していくとともに、国に対して定数改善計画の策定を要望

時間外勤務時間が月80時間超の教職員の割合

	H29 実績 (取組前)	H30 実績	R1 実績	R1-H29	R2年度上半期 (4～9月)の状況		
					R1	R2	R2-R1
小学校	10.8%	→ 9.2%	→ 6.2%	▲ 4.6	8.0%	→ 3.6%	▲ 4.4
中学校	37.3%	→ 31.6%	→ 28.0%	▲ 9.3	34.1%	→ 13.0%	▲ 21.1
高等学校 (全日制)	14.7%	→ 8.3%	→ 6.9%	▲ 6.4	9.7%	→ 2.0%	▲ 7.7

Ⅱ 第2期計画策定後の状況の変化に対応するもの

1. 新型コロナウイルス感染症と共生していく学校運営

- ① 消毒作業など教員の負担軽減 ⇒ **スクール・サポート・スタッフ**の学校への配置（R3も引き続き希望する全学校へ配置）
- ② 児童生徒に対する感染者等に対する差別・いじめは許さない指導
- ③ 学校の衛生環境の改善 ⇒ **トイレの洋式化**や手洗い場の**自動水栓化**を計画的に進める（R3～R5の3か年計画）

2. GIGAスクール構想の実現による学びの質の向上

学校トップの意識改革とリーダーシップ、教職員の認識の共有、効果的な校内研修の充実がカギ

- ① 管理職向け、校内研修を企画・運営する推進リーダー向けの研修
- ② 推進リーダーを中心とした校内研修
- ③ 教員総合研修センターに「**GIGAスクールサポート課**」を新設し、各学校の校内研修をバックアップ
- ④ 国の実証事業による「学習者用デジタル教科書の普及」の研究
⇒ 小学校5, 6年生、中学校全学年 各1教科



3. 特別支援教育の充実（いしかわ特別支援学校と明和特別支援学校の教育環境の向上）

全国的に近年、特別支援学校に在籍する知的障害のある児童・生徒数が増加し、本県も同様の傾向
特に、いしかわ特別支援学校と明和特別支援学校においては、今後も児童・生徒数の増加が見込まれ、教育環境の悪化が懸念されることから、両校の教育環境の向上を図る

⇒ いしかわ・明和特別支援学校の児童・生徒数の増

いしかわ特支 H20（知・肢併設スタート）：242人（うち知的108人）→R2：421人（うち知的307人） 約1.7倍（知的のみ約2.8倍）

明和特支 H22（知・肢併設スタート）：251人（うち知的217人）→R2：342人（うち知的334人） 約1.4倍（知的のみ約1.5倍）



- ① **いしかわ特別支援学校（知的）高等部の新校舎を、令和7年度の完成を目指し、金沢向陽高等学校の敷地内に建設**
- ② 移転後は全国で例のない、日常的に両校の生徒同士の交流を図るインクルーシブ教育の展開を目指す
- ③ 明和特別支援学校については、現在の通学エリアの一部を変更
- ④ 令和3年度は、高等部新校舎の基本計画の策定、インクルーシブ教育内容の検討、通学エリアの具体の検討を進める

4. 石川の新たな「知の殿堂」としての県立図書館の整備（令和4年度前半の開館を目指し整備）

- ・ **多様な知に出会う場の創出**
⇒ 資料の充実、多様な読書空間の提供、児童エリアの充実など
- ・ **文化活動・交流の場の提供**
⇒ 様々なイベントスペースの設置、企画展示や講演会等の継続的な実施など
- ・ **石川らしさの継承・創造・発信**
⇒ 国内外の伝統文化及び里山里海に関する様々な資料を収集した石川コレクション(仮称)の構築など
- ・ **県民の知的創造活動の支援**
⇒ 図書館の資料を使いながら「ものづくり」や「食文化」に関する体験が出来る機能・空間の提供など
⇒ 児童エリアに接する屋外広場での耕作体験や観察会の実施